

強者の戦略

論述世界史〔2003年 京都大学 第3問〕

こんにちは。研伸館の世界史の北林です。問題にチャレンジしてみてどうだったでしょうか。今回の問題は、近現代史まで一度ざっと復習している人にとっては比較的解きやすかったのではと思いますが、知識を正確に、そして比較の問題になりますので、丁寧に構想メモを考えていきたいところです。今後の近現代史の学習では、西洋と同時期の東洋など、他の地域も意識して見てくださいね。では、解説をしていきましょう。

<時代背景を確認>

まずこの問題の冒頭に第一次世界大戦という言葉がでてきます。大戦が始まった当初はヨーロッパの局地戦で、多くの方はクリスマスまでには終わる、なんて言っていたそうです。ところが実際は足かけ5年。膠着状態が続き長期化、そして各国は**総力戦**となっていき、新兵器の出現もあって、世界中で多大な犠牲を払うことになります。また膠着状態を打破するために様々な外交工作が行われます。特に**イギリスの外交に注目しておきたいところです。ロンドン秘密条約でイタリアが寝返って三国同盟の一角が崩れ、イギリスがトルコでの三重外交で内部の切り崩しをはかり、直轄領・自治領には戦争協力の条件に自治などをちらつかせながら外交をしました。こうして戦火は世界中に広がります。**

統計によって多少の誤差はありますが世界中で一次大戦によって亡くなった人の数が800万人を越えているとも言われています。

大戦の後、新しい体制が生まれるにあたり、**パリ講和会議では大戦中に出されたウィルソンの十四カ条が基本理念となりました。そこに「民族自決」という言葉がありました。これに植民地や列強の支配に置かれている地域に多大なる影響を与えました。民族自決は結局のところ列強の都合の良いようにしか使われず、一次大戦後のアジア・アフリカなどで**

は民族運動が起きました。

ではこうした背景を思い出しながら問題を一つ一つ丁寧に見ていきましょう。

<問われていることを確認>

主問は「このことに関して、イギリスを例にとり、インドおよびエジプトに対して大戦中にどのような政策がとられたかを、そのことが戦後に生み出した結果にも触れつつ…」ですが、「このことに関して」とありますので、そこもしっかり見ておきましょう。「このこと」とは

- ・第一次世界大戦は長期化、
- ・これに関わったヨーロッパの主な国々は本国の大衆を動員

・植民地や保護国を抑えつけながらも、同時にその力を借りて戦った

という内容で、今回はインドとエジプトについてです。

大戦中だけでなく、大戦前、大戦中、戦後、と考えてきましょう。

解答に際して、比較しろという問題ではありませんが、並列して構想メモを考えてみましょう。

1 インドについて

○大戦前

インドは1877年以降、**インド帝国**となります。これは**イギリスの直轄領**でした。インドでは知識人の対英協調組織である**インド国民会議**が力をもっていました。しかし**ベンガル分割令**などにより**反英**に転換し、自治を求めるようになっていきました。

○大戦中

イギリスは**インドの戦争協力を求めます**。人口が多いので、兵士、労働力などで協力を求めました。その見返りは**戦後の自治**。国民会議派の中ではかなり悩んだそうですが、結局100万を超える若者を戦場

強者の戦略

に送ることになりました。また物資なども強引に協力させました。トルコ戦線、そして膠着していたヨーロッパの西部戦線に送り込まれます。

○大戦後

インド統治法が出たのですが、これが全然実態が伴わず、実質約束は反故にされました。またローラット法によって民族運動が弾圧されることになります。パンジャブでアムリットサル事件などもおこり、1919年からガンディーらを中心とした非暴力不服従運動が展開されることになりました。

2 エジプトについて

○大戦前

エジプトはオスマン帝国(トルコ)の中にありますが、ムハンマド＝アリーがエジプト総督の世襲権を持ち、ムハンマド＝アリー朝といわれました。イギリスがスエズ運河会社株を買収し、エジプトに大きな影響を持つようになると、ウラービーの乱が起こります。これをおさえ、イギリスはエジプトを事実上の保護国としました。スエズ運河はエジプトにとって、インドなどアジアへ向かう生命線といっていました。

○大戦中

大戦が始まると、まずエジプトを正式に保護国とします。もちろんスエズ運河をしっかりとおさえるためです。そして、インド同様、労働力や物資について強制的に協力させます。ただ、負担は重く反発がおこります。

○大戦後

1918年ごろに結成されたワフド党という民族主義組織が反英運動を展開します。「ワフド」は代表の意味で、戦後の講和会議に代表を送り、独立を訴えたことからそう呼ばれています。

世界中で民族運動が高揚する中、1922年にエジプトは独立します。ただし、運河にイギリス軍が駐留したままの状態での独立となりました。

では、以上を参考に解答文を作成してみましょう。

【解答例】

第一次世界大戦が始まると、イギリスは直轄領としていたインドに戦後の自治を約束して大戦に協力させ、19世紀末に占領下においていたエジプトを正式に保護国とし、労働力や資源を強制徴発してトルコ戦線に投入させた。しかし戦後イギリスはインド統治法で形式的な自治しか認めず、逆にローラット法を制定して民族運動を弾圧したため、ガンディーを中心とした非暴力・不服従運動が始まり、完全独立を要求するようになった。エジプトにおいても戦争の負担に対する反発から、戦争末期に結成されたワフド党を中心に独立運動が高揚したため、イギリスは1922年に保護権を放棄し独立を認めたが、スエズ運河駐兵権などは留保したのでさらに抵抗は続いた。

(300字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、気になるころがあれば、その際は遠慮なく質問してください。添削を希望される方も遠慮なくおっしゃってください。

ではまた次回、お会いしましょう。

北林久忠

強者の戦略

第一次世界大戦は予想をはるかに越えて長期化し、これに関わったヨーロッパの主な国々は本国の大衆を動員しただけではなく、さらには、植民地や保護国を抑えつけながらも、同時にその力を借りて戦わねばならなかった。このことに関して、イギリスを例にとり、インドおよびエジプトに対して大戦中にどのような政策がとられたかを、そのことが戦後に生み出した結果にも触れつつ、300字以内で説明せよ。

- ・インドおよびエジプトに対して大戦中にどのような政策がとられたか
- ・そのことが戦後に生み出した結果にも触れつつ

	インド	エジプト
戦前	インド帝国として直轄	実質的保護国(ムハンマド=アリー朝)
戦中	戦後の自治を約束して協力を求める →インドは若者達を戦場へおくった	大戦中の正式に保護国化(運河確保のため) 労働力・物資などを負担させる
戦後	形式的自治のみ →ローラット法などで弾圧 ガンディーらによる運動	独立運動を展開! ワフド党による独立運動 →1922年独立達成するが運河には英国軍がいる